



〈参考資料6〉 展示の簡易な方法(第2回「まちづくり 地域歴史遺産活用講座」 試行プログラム(2011.2.19- 20実施)テキスト)

古市, 晃

(Citation)

地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備, 特別研究プロジェクト(平成22年度事業報告書):102-104

(Issue Date)

2011-03-31

(Resource Type)

research report

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81003406>



○展示の目的：何を伝えるかが明確であれば、それに応じた方法を考え出せる。

○展示を通じた歴史叙述

○資料の選定(出品交渉) 1点で何を語らせるか 複数の資料で語る事 展示室全体のレイアウト

○わかりやすい展示構成 (例)大項目 中項目 小項目 トピックス

○文字解説

自己満足に終わらず、読んでもらえる解説を書こう 字数の制限、グループ化。

○写真・図パネル

多ければいいというものではない 展示室に持ち込めない状況 資料の本来のあり方を説明 cf. 映像(音 時間 場所) 模型

○展示ケース

壁面ケース 独立ケース 島ケース 何をどのケースに入れるか 位置決めが肝心

○リーフレット

解説 列品リスト

(収蔵庫の問題)

(広報活動)

普及活動 講演会 展示解説会

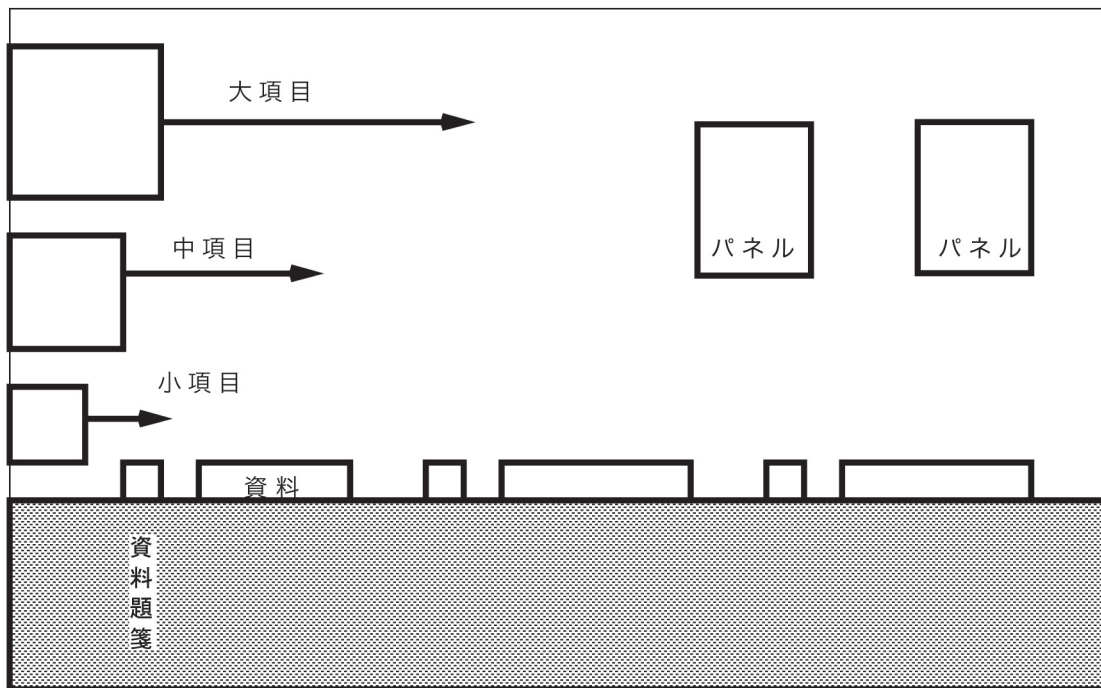
○照明

展示を左右する重要要素。展示作業の最終段階で、念入りに行く。蛍光灯、スポットライトとも、紫外線を出さない美術用を使用する。近年ではLEDも用いられる。

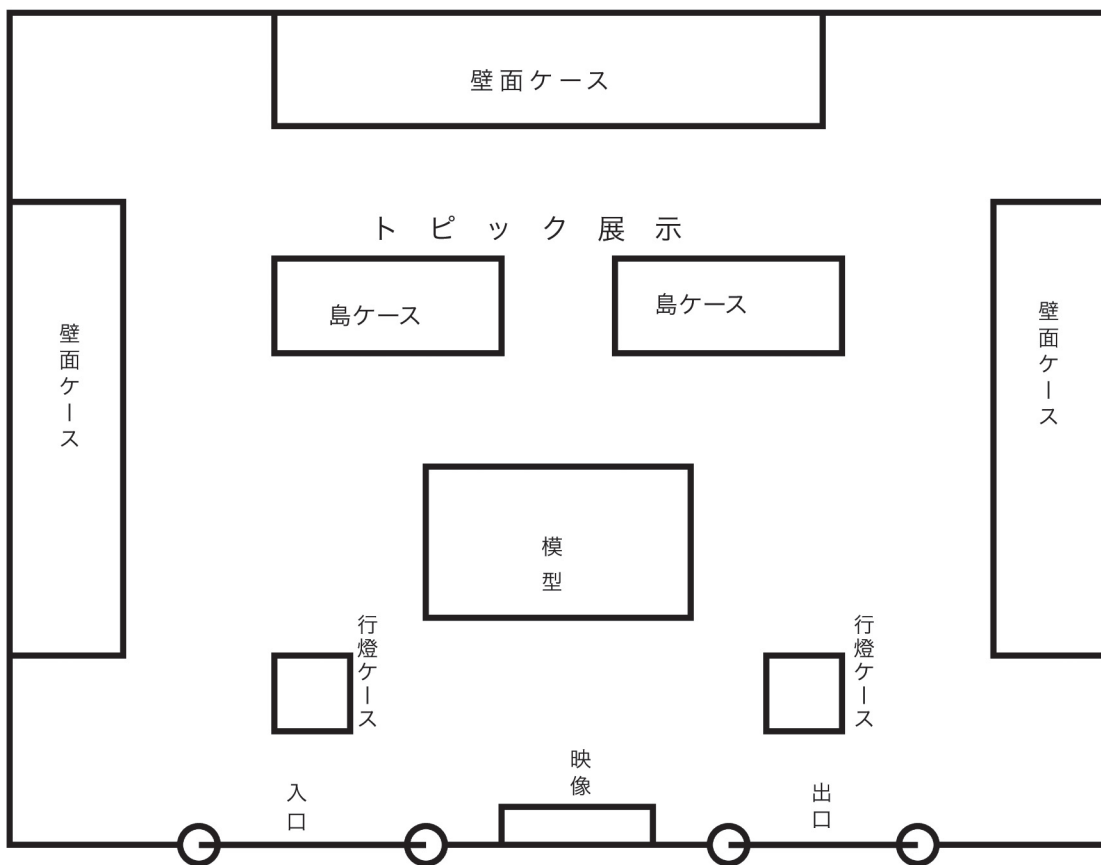
○皆が見やすい展示になっているか いわゆるバリア・フリーの問題

終了後

資料の返却 挨拶 礼状



展示ケース内イメージ



展示室イメージ

【展示の際に注意すること】

- ・基本：資料を絶対に傷めないこと（ピンポイントで圧力のかかるような展示方法を極力避ける）、ケース等を汚さないこと。
- ・作業は極力単独では行わない。複数で作業する方がミスが少ない。
- ・展示期間中は、開館前と閉館後にかかわらず資料の状態を確認する。変化があればただちに回収する。

○展示室

- ・直射日光を入れない。外気を直接入れない：紫外線による資料の劣化。温湿度の変化でカビ等の原因になる。虫害を受ける原因となる。

○展示ケース

- ・できればエアタイト、またはセミ・エアタイトが望ましいが..... 難しければ展示室内の温湿度を極力調整する。ケース内の湿度：吸湿剤（商品名アートソープ等）で調整。
- ・温湿度：文書資料の場合、気温摂氏 20 度、湿度 55 パーセント程度が目安。温湿度管理は、当然ながら 24 時間。

○演示具と展示の実際

- ・資料の固定：テグス+チューブ。虫ピンなどを使用。ガラス製文鎮（罫算）を資料の寸法に合わせて各種用意しておくのが望ましい。
- ・事務用のペーパーウェイト、金属製文鎮などを直接資料にあてるのは避ける：中性紙製の薄葉紙（うすよう、単にうすとも）に包むなどの保護が必要。
- ・掛軸（掛物）・絵図などを壁面展示する場合：資料を直接ダブルクリップなどで挟むのは厳禁。掛緒が劣化している場合は平置き、または斜面台を利用する。絵図や文書の場合、必要に応じて指示記号等を置く方法があるが、その場合は中性紙を利用する。
- ・考古資料を中心とする「土物」；直接展示台に置くと汚れることがある。その場合、台にあらかじめ薄葉紙を敷いておく。
- ・資料が固定を要する場合、テグス+チューブを用いる他、エッサフォーム（エッサ、エサとも）のブロック状になっているもの（梱包用は不可）を貼り合わせ加工するなどの工夫が必要。
- ・パネル：「貼りパネ」の使用。一気呵成に貼り、切る。腕の見せ所！ 水平に展示。目安糸などの利用。資料題箋は極力立てる。
- ・十分な演示具がない場合：身近な用具の代用も可であるが、素材の特性を見極めること。